

令和5年度 第2回 春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議議事録

1 開催日時 令和6年2月6日(火) 午後3時～午後4時30分

2 開催場所 東部市民センター3階 多目的室

3 出席者

【委員】 中部大学工学部都市建設工学科教授	服部 敦
愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授	田川 佳代子
春日井商工会議所副会頭	高柳 通
春日井市区長町内会長連合会副会長	中藤 幸子
公募委員	服部 由貴
公募委員	稲田 浩之
春日井市副市長	加藤 達也
高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社代表取締役社長	
	高橋 利光
高蔵寺まちづくり株式会社常務取締役	前川 広
独立行政法人都市再生機構中部支社都市再生業務部部長	
	羽田 俊之
医療法人社団喜峰会理事法人管理部長	磯村 延宏
【オブザーバー】	
国土交通省中部地方整備局都市調整官	石橋 隆史
独立行政法人都市再生機構中部支社住宅経営部担当部長	
	村上 明隆
【事務局】	
まちづくり推進部長	加藤 裕二
同部次長	森 浩之
ニュータウン創生課 課長	中村 武司
課長補佐	野々垣 孝洋
主査	伊豆原 崇人
主査	水野 貴大
主査	深谷 誠士
主任	松山 晴貴

都市政策課	課長	苅谷	健生
	課長補佐	熊澤	伸晃
	主査	津田	哲宏

【傍聴者】 2名

4 議 題

(1) 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び令和6年度の予定について

5 会議資料

- 資料1 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び令和6年度の予定
- 資料1-1 団地再生によるモデル住宅地づくり：高森台スマートウェルネスの整備
- 資料1-2 ニュータウンの顔づくり：高蔵寺ゲートウェイの整備
- 資料1-3 旧小学校施設の活用による生活利便施設誘致：西のサブセンター整備
- 資料1-4 交流拠点をつなぐ快適移動ネットワークの構築・多様な移動手段の確保
- 資料1-5 戸建て住宅エリアのストック活用の促進
- 資料1-6 ニュータウン・プロモーション
- 参考資料1 配席図
- 参考資料2 令和5年度第1回高蔵寺リ・ニュータウン推進会議議事録
- 参考資料3 ReNEW部 KOZOJI ステッカー（2種類）
- 参考資料4 東海記念病院広報誌「スマイル」2024年冬号
- 参考資料5 広報春日井令和6年2月号

6 議事内容

【事務局中村】 本日は生田委員が都合により欠席となっているが、出席者数は全委員12名中11名で半数以上の出席であり、本会議は有効に成立している。

また、平成29年度第1回の推進会議において、この会議は公開することに決定しており、本日の傍聴者は2名である。

本日はオブザーバーとして国土交通省中部地方整備局都市調整官・石橋氏と独立行政法人都市再生機構中部支社住宅経営部担当部長・村上氏が参加している。

【服部会長】 （議事録署名人として稲田委員を指名）

1 議題 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び令和6年度の予定について

【事務局水野】 (資料1、1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6に基づき説明)

【中藤委員】 (事前に配付した「ゆっくりカートだより」に基づき説明)

地域の方よりカートをどのように活用しているのか知りたいという声があり、今回の号では、表面に「病院に行っている」「買い物に行っている」など、利用者の声を掲載している。また、本日は午前中に4件の利用があった。今の時期は寒く、利用が少し伸び悩んでいるが、買い物目的に多くご利用いただいている。

今後も地域の声を反映しながら、よりサービスが利用しやすいものにしていきたいと考えている。最近是国内外からの視察があり、市内の方にもぜひ、様子を見に来ていただきたいと思う。

石尾台地区では、最近、スギ薬局がオープンしたほか、B&Dドラッグストアやウエルシアなど、ドラッグストアが充実している。それぞれに広い駐車場があり、お値打ち価格で販売しているため、地区外からも来店があるように感じる。また、地区内にはナフコもあるため、寒い中にも買い物を楽しむ方々の姿を多く見かけるようになり、少しずつまちが活気づいてきたように感じている。

事務局の説明に関連する意見としては、私事ですが、昨年9月に孫が生まれ、すぐ近くに住んでいるため、小さい子どもがいる暮らしを身近に感じている。その中で、リ・ニュータウン計画の子育て世帯の割合の目標値は、令和7年で19%となっているが、令和5年4月時点で15.5%であり、どのように19%にするのか気になるころではある。また、前述の子ども家族が、アピタではなく、土岐市のイオンに50分ほどかけて行っていると聞いた。同ショッピングセンターには男性用トイレにもおむつ替えスペースがあったり、ミルクが欲しいときにお湯を提供してくれたりするなど、子育て世帯に優しい施設になっていると話していた。高蔵寺ニュータウンに若い世帯を取り戻すためには、そういった施設づくりを進んでやらなければならない時代になっているのではないかと感じる。今、オールドタウンから脱却しつつあると感じるが、さらに「高蔵寺ニュータウンに住むと50万補助金を出すよ」など、若い人たちが高蔵寺ニュータウンを選んでくれるような画期的な施策を出すと良いのではないかと感じる。

【服部会長】 子育て支援施策に対する強いエールということなので、よろしく願いしたい。他の委員からご意見、ご質問はあるか。

【高橋委員】 ただ今、中藤委員よりアピタの設備等について貴重なご意見をいただいた。今後の店舗運営、施設改修に参考にさせていただければと思う。

また、今回、市が実施する Maas の実証実験について、私もシェアサイクルを 10 回ほど利用した。今後、ぜひ実装できるよう期待している。

【前川委員】 私も交通の実証実験について意見を申したい。今回、電動車いすを利用して、藤山台商店街、サンマルシェ、旧西藤山台小学校施設、藤山台商店街というコースを移動してみた。団地内は歩道が広くて苦はなかったが、既存の道路にある歩道では、前から人が歩いてくるとすれ違いに苦労した。この状況だと、電動車いす同士でのすれ違いができない。使い方を限定すれば良いが、街中に浸透はしないというふうに感じた。このことについて、考えを聞かせていただければと思う。

【服部会長】 今の質問について、事務局から回答をお願いしたい。

【事務局津田】 電動車いすの実証実験については、URさんをはじめ、さまざまな団体にご協力をいただき実施している。経緯としては、昨年度に同様の電動アシスト自転車の実証実験を行った際のヒアリングにおいて、高齢者の方から、利用時に不安があるという声をいただいたことを受け、今回は電動車いすを導入した。一方で、ご指摘のとおり、いざ導入してみると、全ての道が電動車いすで双方に通行できない、といった課題も見えてきた。すぐさま課題を解決して電動車いすを実装することは困難だとは思いますが、例えばUR団地内に設置することによって、居住者に対する一定のインセンティブになるのか、または電動車いすに限らず、どのようなものがこの地域の価値向上に働くかについて、ヒアリングやアンケート等を実施し、引き続き検証していきたいと考えている。

【服部会長】 引き続き検討を続けていただければと思う。

【羽田委員】 URでも、1月9日から21日にかけて、藤山台地区を中心に、車いすを用いた実証実験を行った。春日井市の皆さんにはご協力いただき感謝している。

確かに前川委員よりご指摘があったとおり、高蔵寺ニュータウンの道は車椅子の対面通行用に設計はされていないため、そういった面では今回の実験を通して課題が明示化された。一方で、本エリアには歩車分離という設計思想があり、改修すれば活用できるようになる道もあり、今後の可能性はあることは高蔵寺ニュータウンの良さではないかと考えている。先程、事務局より回答があったとおり、改修してすぐ、今年度中に実装するというように簡単にできることではないが、今後中長期的に考える中で、課題が浮かび上がったことは収穫ではないか。

【服部会長】 UR団地内は特に可能性があると思うので、今後もしもご検討を進めていただきたい。特にウォークブルの関係は国の支援等もあるため、高蔵寺ニュータウン内で

のウォークابل、さらに車いす対策を引き続きご検討いただければと思う。

【中藤委員】 高蔵寺駅について質問したい。資料1-2中に示されている一時駐車場は有料か。

【事務局中村】 一定時間内は無料、一定時間を超えると有料という運用を現在検討している。

【中藤委員】 「駅を使用する家族の送迎の際に使い勝手がいいように」という意見があったと聞いているが、この資料の案で、その意見が反映されたことになるのか。

【事務局中村】 高蔵寺駅に迎えに行くと、一般車スペースと駅との距離があるため、帰ってくる人を待つ場合は5分～10分程度駐停車することが多い。こういった状況を踏まえ、一時駐車場を20分～30分程度であれば無料にする運用とすれば、帰りを待つ方にとって利用しやすい駐車場になる。現在の一般車スペースは10台程の駐車スペースだが、一時駐車場をつくることで、さらに20台程駐車可能な車両台数を増やすことができ、混雑の解消にもつながると考えている。

【中藤委員】 市民の皆さんが、市がさまざまなことを検討した上で新たな案を出されたことを理解され、計画がスムーズに進んでいくことを願っている。エレベーターの設置は2か所か。

【事務局中村】 資料中の黄色で囲まれた「EV」が新たに設置を検討しているエレベーター、灰色で囲まれた「EV」が既存のエレベーターである。今後、どの場所に何を設置すれば利便性が向上するかを検討していくが、今回提示した修正レイアウト（案）としては、公共交通機関への利便性を向上させることを考えると、エスカレーターやエレベーターは必要と考えている。

【中藤委員】 高蔵寺ニュータウンは高齢者が多いまちであり、健康とはいえ、膝を悪くされている方などは多くいると思う。できるだけ関係者の声を聞きながら、今後の設計等を進めてほしい。

【田川委員】 資料1にあるとおり、人口減少の中で、高齢化率が高まっているが、そうした中でも成果指標の一つである要介護等認定率は抑制されている。同様のケースは近隣の自治体でも見られ、コロナ禍の中で、要介護等認定率が抑制されたという現象がある。一方で県の国保や広域連合、後期高齢者医療などのデータを見ると、医療費が急激に伸びている。過去に成果指標で高蔵寺ニュータウン内のみの医療の受診率のデータを取ることにはできないと回答されているため明確には分からないが、要介護等認定率が抑制されていることについて、介護予防の効果があったのか、自助や互助の支え合いがあつて公的なサービスを使わずに済んでいるのか、あるいは公的サービスを受けないと我慢をした結果、悪化して医療の受診が伸びているのか、分析が必要かと思う。

ゆっくりカートだよりの利用者の声として挙がっている医療機関やドラッグストアなどが、恐らく市民の方々が頼りにされている医療・介護関係者だと思われ、こういったサービスがなければ、まちが衰退してしまいます。資料1-3にあるように、旧西藤山台小学校施設の民間エリアにあるクリニックA、B、Cにどのような医療機関が入るのが重要になってくると感じる。高齢化が進む中、できる限り市民にとってはかかりつけ医を持つことが非常に重要なので、その点を考慮しながら、誘致を進めていただければと思う。

【事務局中村】 旧西藤山台小学校施設の民間エリアのクリニックについては、3業種のクリニックが入る予定で、現時点ではAに内科が入ることは決定しており、B、Cについては、民間事業者で誘致を進めている。民間事業者から地元の要望等を聞きながら誘致を進めていると聞いており、今後の進展に期待している。

【服部会長】 医療の話も出ましたが、医療に限らず、磯村委員はいかがか。

【磯村委員】 医療に携わっている立場から意見を申し上げる。感覚的な部分もあるが、介護保険は、認定という制度や介護度によって利用できるサービスに上限が設定されているため、ある程度のコントロールができるが、医療は上限がないため、医療費の削減はなかなか難しい部分がある。介護の認定率が低くなっても医療費は増えるというのは、そういった部分があると思う。

当院は、在宅療養支援病院を標榜し、個々のお宅への訪問診療を行っており、訪問診療を受けていただきながらできる限り在宅で健康に過ごしていただく医療を目指している。その中で、できる限りこの高蔵寺ニュータウンで高齢者の方が住みやすいようにと、近隣のクリニックとも、日々、さまざまな面で連携している。先日、旧西藤山台小学校施設のクリニックAに入られる内科の医師が当院に挨拶にみえた。元々その医師は高蔵寺ニュータウン出身ということで地域に思い入れがあり、今回、名古屋のクリニックから移ってこられたと話していた。そういう想いで来られているので、地域の力になっていただけたと思っている。その一方で、医療費削減が叫ばれている今、クリニックの経営も簡単ではなく、B、Cに入るクリニックを探しているようだが、なかなか大変だとも話していた。

【服部会長】 地域環境の整備を進めていただければと思う。また、高蔵寺ニュータウン出身の医師の方が地元に戻って来られてうれしく思う。服部由貴委員はいかがか。

【服部(由)委員】 資料1-6のニュータウン・プロモーションにおける「子ども向け自転車乗り方教室」について、先日、偶然この教室に応募したが落選したというお母さんとお会いした。落選は残念だが、この取組がすごくうれしかったと話をされていて、ぜひこの場

でお伝えしたいと思っていた。

子育て支援にはさまざまな方法があると思う。今回の自転車の乗り方だったり、例えば縄跳びの跳び方や靴の買い替えのタイミングなど、すごく身近な支援はお母さんたちに響くのではないかと感じている。昔だったら「家で教えられることじゃないの?」と言われてしまう内容かもしれないが、今はこういった取組が「子育て支援をしてもらっている」とお母さんたちが感じることはないかと思う。

【服部会長】 事務局としてはうれしい話だと思うが、何かあるか。

【事務局野々垣】 本教室は、毎回定員を大きく超える応募があり、大変好評をいただいている。ニュータウン・プロモーションは、エリア外からの来訪促進を目的として行っており、子ども向け自転車乗り方教室についても、引き続き回数を重ねてやっていきたいと考えている。ちなみに3月16日（土）も開催予定なので、前回落選された方にもお伝えしていただけたらと思う。

【服部会長】 稲田委員は何かあるか。

【稲田委員】 資料1-2「高蔵寺ゲートウェイの整備」の内容について聞きたい。私自身も日頃、高蔵寺駅をよく利用する。現在もさまざまな催しが行われており、今後、整備が進み使いやすくなっていくのは非常に嬉しく思う。資料に示された修正レイアウト（案）の右下にT字路の交差点があるが、ここが非常に危険だと常日頃利用して感じている。駅の整備とは直接関係ないかもしれないが、今後、整備が完了して駅が使いやすくなり、利用率が上がっていくことが考えられる中で、こういう部分も合わせて検討していただくことはできないか。

【事務局中村】 公安委員会との協議が必要な部分もあるため、来年度の基本設計を進める中で、できる範囲での改善を視野に入れながら進めていきたいと考えている。

【服部会長】 高柳委員は何かあるか。

【高柳委員】 資料の内容ではないが、春日井商工会議所には青年部と女性会という二つの若い世代の組織がある。今回、女性会が主催で「かすがい女性起業ビジネスコンテスト」を2/3（土）に行った。約15名がエントリーし、最終的に絞られた5名が土曜日にプレゼンテーションを行ったが、その5名のうち4名が高蔵寺ニュータウン周辺の方で、このエリアで起業したい、今行っている事業をさらに発展させたいというプレゼンテーション内容だった。春日井市全体でも今、中部大学や商工会議所と連携してスタートアップに力を入れている。例えば、グループふじとうを一つのスタートアップ支援の場としても良い。先程、服部（由）委員の意見の中に「子育て」というキーワードがあったが、例えば子育ての分野で起業したいという若い女性を支援すること

で、少しでもビジネスチャンスが広がるようなことがあれば、高蔵寺ニュータウンの活性化につながると思う。そういった機会を春日井市やまち会社、URが協力して支援していただけるとありがたい。

【服部会長】 とても良い意見。ぜひ検討いただければと思う。事務局は何かあるか。

【事務局中村】 スタートアップ支援を、市やまち会社、URで連携して行うことは、高蔵寺ニュータウンの発展につながる取組であると思う。今後、調査研究していきたい。

【服部会長】 オブザーバーのお2人からもコメントをいただきたい。石橋オブザーバーは何かあるか。

【石橋オブザーバー】 2点お聞きしたい。1点目は、資料1-4の交通関係の取組について。さまざまな取組をさせていただいている中で今後の方向性の説明はあるが、今後の見通しについて具体的に、何か明るい話があればお聞きしたい。

もう1点は、資料1-5の空き家・空き地の活用について、国交省としても、空き家については大きな課題として認識している。春日井市でも、空き家バンクなどコマースベースの取組があると思うが、そういったものの連携や枠の拡大などより精力的に活動していくために検討されたものがあればお聞きしたい。

【服部会長】 それぞれの回答を事務局よりお願いしたい。まずは交通の関係から。

【事務局津田】 交通関係の取組の今後のより具体的な方向性については、資料1-4に、大きく3種類の取組を記載している。1つ目は乗り合いタクシーの実証実験で、昨年10月からスキームを変更し、さらに東海記念病院をはじめ、関係の皆さまに協力をいただいて事業の検討を進めているが、運賃収入と協賛金のみで運行費を賄うことは難しいということは分かってきている。そういった状況で、今後の継続については少し整理が必要だとは感じている。一方、国でもライドシェア等の議論がされており、事業の落としどころが流動的になっている部分もあると感じている。関係者の皆さま含め、引き続き協議を重ねていきたいと考えている。

石尾台地区ラストマイル送迎サービスについては、地域の皆さまに精力的に活動していただいている。本取組について、国は自動運転レベル4の運行箇所50か所を目標としており、各省庁から補助金等のメニューが出ている。市としても、関係者とともに運営して下さっている地域の皆さまの負担を軽減できる形で、システム改修等も含めて実現していきたいと考えている。

Maas アプリについては、実証実験を開始してようやく約1年が経過する。今回、デジタルチケットの券種の追加や料金改定を行うことで、利用が伸びてきている。利用者に感想を聞くと、「窓口に行かなくても良くなった」など、便利になったという声

を多くいただいている。今後も実証実験という形で継続しながら、利用者にとってより利便性が高まるよう検討を進めていきたい。

【服部会長】 空き家・空き地関係の回答もお願いしたい。

【事務局中村】 空き家・空き地活用の取組については、資料1-5のとおり、まち会社にさまざまな取組を実施していただき非常に感謝している。高蔵寺ニュータウンの戸建て空き家率は令和4年度で3.6%となっているが、市内全域はおよそ6%で、現時点で高蔵寺ニュータウンは市内全域に比べて戸建て空き家は少ない状況である。しかし、高蔵寺ニュータウンは高齢化率が高く、今後、空き家の発生増加が懸念される。先ほど中藤委員からの意見の中にもあったが、市はさまざまな補助金制度を設けるとともに、空き家バンクを運営するなど、空き家対策を進めている。

【服部会長】 村上オブザーバーはどうか。

【村上オブザーバー】 私は今、UR賃貸住宅の入居促進に係る業務を行っているが、その中で、高蔵寺ニュータウンの若返りを図ることを重要視している。具体的には若者に訴求力の高い無印良品とコラボレーションしたりノベーション住宅や、本日の資料で説明のあった中部大学、春日井市と連携した「地域連携住居制度」などがある。そういったものを通じて、団地の若返りや地域の活性化につなげていきたいと考えている。また、若者を取り込んでいこうとする中で、高蔵寺ニュータウンを知らない若者が多いことを痛感している。そういった状況の中で、ニュータウン・プロモーションの説明であったとおり、自転車などを活用して、若者、子育て世代に関心を持ってもらえるようなイベントが非常に盛んに行われていて驚いている。そういった取組をできるだけ多くの方に発信していくことを、春日井市と連携して行っていきたいと思っている。

もう1点、今年1月1日に発生した能登半島地震による被災者に向けて、UR賃貸住宅を提供しており、その情報共有もさせていただきたい。現在、被災された方々にUR賃貸住宅を一時的な住まいとして提供しており、関東から九州まで、全国で300戸を用意し、1月17日から受付を始めている。入居期間は半年間で、入居中の家賃や敷金、共益費、駐車場利用料は無料、また、希望者には布団や照明などガスコンロなども無償提供している。全国に300戸のうち愛知県では50戸、その中で高蔵寺ニュータウンが30戸含まれている。エリアは藤山台と岩成台。お困りの方がいらっしゃれば、私やURの窓口までお知らせいただきたい。

【服部会長】 全国300戸のうち10%が高蔵寺ニュータウンということで、非常に大きな割合を占めていると感じる。是非、皆さまそれぞれの立場で被災者のサポートにご協力いただけたらと思う。

一通り、皆さまよりご意見ご質問をいただいた。その他に特になければ、加藤副市長にコメントをいただきたい。

【加藤委員】 皆さまから貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。今後のニュータウンの施策に生かしていきたいと思う。ご意見をいただいた中で、感じたことをお話しさせていただく。

石尾台地区ラストマイル送迎サービスについて、中藤委員からもご説明いただいたが、チラシの中で利用者の声として80代、90代の方の声を聞かせていただき、喜んでいただいていることがよく分かった。持続可能なサービスとして、春日井市として引き続きしっかり支援していきたい。またチラシの表面の下部にある「秋の特別運行」のような行事をさらに行っていただき、新しい利用者を開拓していただけるとより良いのかなと感じた。

次に高蔵寺ゲートウェイの整備について、先日の建設委員会で、本日お配りした資料と同じ内容を持って説明したが、特に大きな反対意見はなく、本案を基本に今後基本設計等を進めていきたい。

続いて、空き家・空き地活用について、能登半島地震で市からも職員等が支援に行っているが、現場を見てきたところ、耐震補強が昭和56年以前の家屋は耐震化率が非常に悪く、潰れたり、倒壊したりしている家屋をたくさん見てきたと聞いている。市としても、耐震化補強の関係をより積極的にPRし、能登半島地震を他人事とせず、周知啓発に力を入れていきたい。

続いて、若い世代の転入促進について、高森台の3-3街区の販売がいよいよ始まり、既に99区画のうち半分ほど売れたと聞いており、多くの若い子育て世代の転入を期待している。それに合わせて高森山公園も必要な整備、検討に向け、来年度基本設計をしていく予定なので、3-3街区に多くの人々が転入してくる頃にはにぎわいのあるエリアになると期待している。

次にSNSのフォロワーについて、前回会議の際には1,367人ということで少し寂しいという意見をしたが、半年間で1,000人近く増加しており、ReNEW 宣伝部の皆さまの取組などの効果があったのではないかと思う。今回、東海記念病院の広報紙でもその活動を紹介していただいております、秋までは今のメンバーに活動していただき、10月からは新しいメンバーに代わってと、どんどんこの輪を広げていければ良いと思う。また、機会があれば委員の皆さまにも投稿も見ていただけたらありがたい。

【服部会長】 それでは、事務局にお返しする。

【事務局中村】 委員の皆さまには、お忙しい中、長時間にわたりご出席いただき感謝申し上げます。

次回の会議については、後日事務局よりご案内する。

令和6年 3 月 22 日

会 長 服部 敦

署名人 箱田 浩之